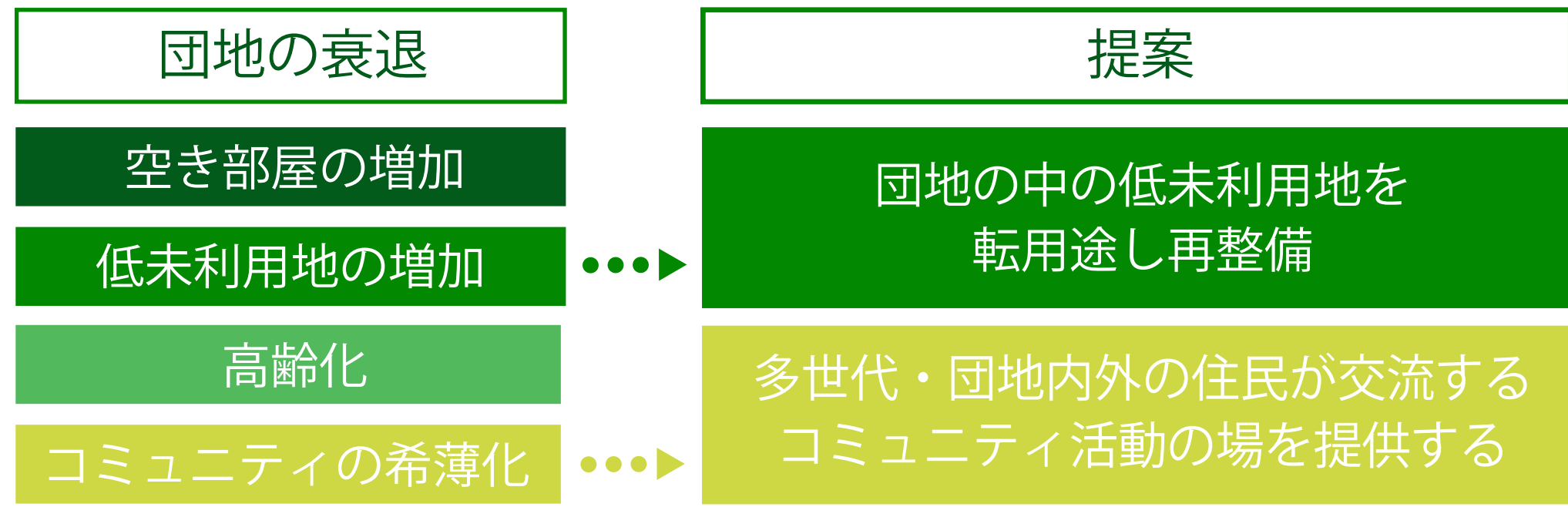


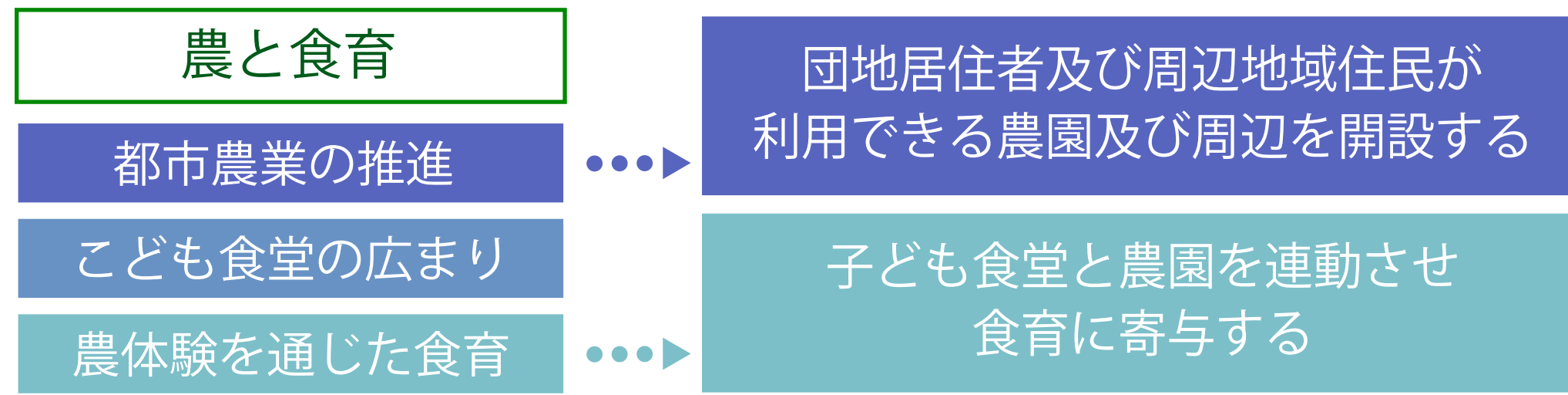
未利用地を利用したコミュニティ形成に関する研究

福岡市有住校区室住団地における農園開設の可能性

背景 多くの住宅団地では高齢化と空き部屋の増加が課題となっている。また、かつて利用されていた団地内の駐車場やプールやテニスコート等の施設は需要が低下し、現在利用されていない状況が見受けられる。このような団地内の低未利用地を転用し、新たなコミュニティの場を創出する動きが様々な所で高まってきている。



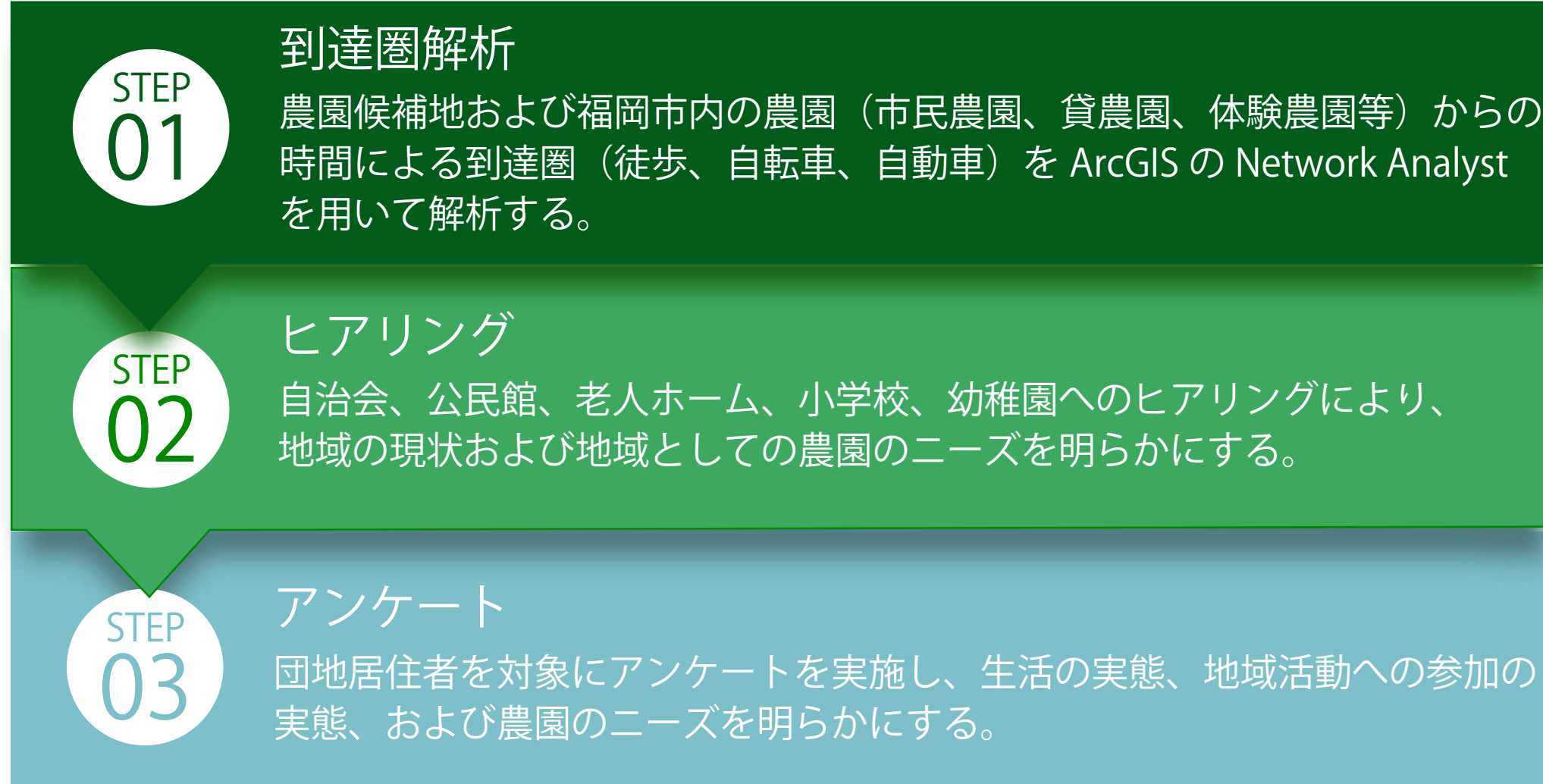
都市住民において、「自然と親しむ」という要求が増加しており、国レベルでも都市農業が推進されている。また、貧困率の高まりや孤食の子どもの増加に伴い、地域レベルでも子ども食堂が急速に広まっている。さらには農体験を通じたこどもの食育が行われるようになってきている。



目的

- 住宅団地内未利用地を活用した共同農園開設に向けた、
- ・地域の現状を把握する。
 - ・農園開設に対するニーズを明らかにする。

研究概要



調査対象地は、福岡県福岡市早良区室住団地とした。室住団地を含む有住小学校校区の高齢化率は 28.8%。早良区の中でも特に高い数字である。室住団地の北端にある未利用の駐車場を農園候補地とし、研究を行う。



考察

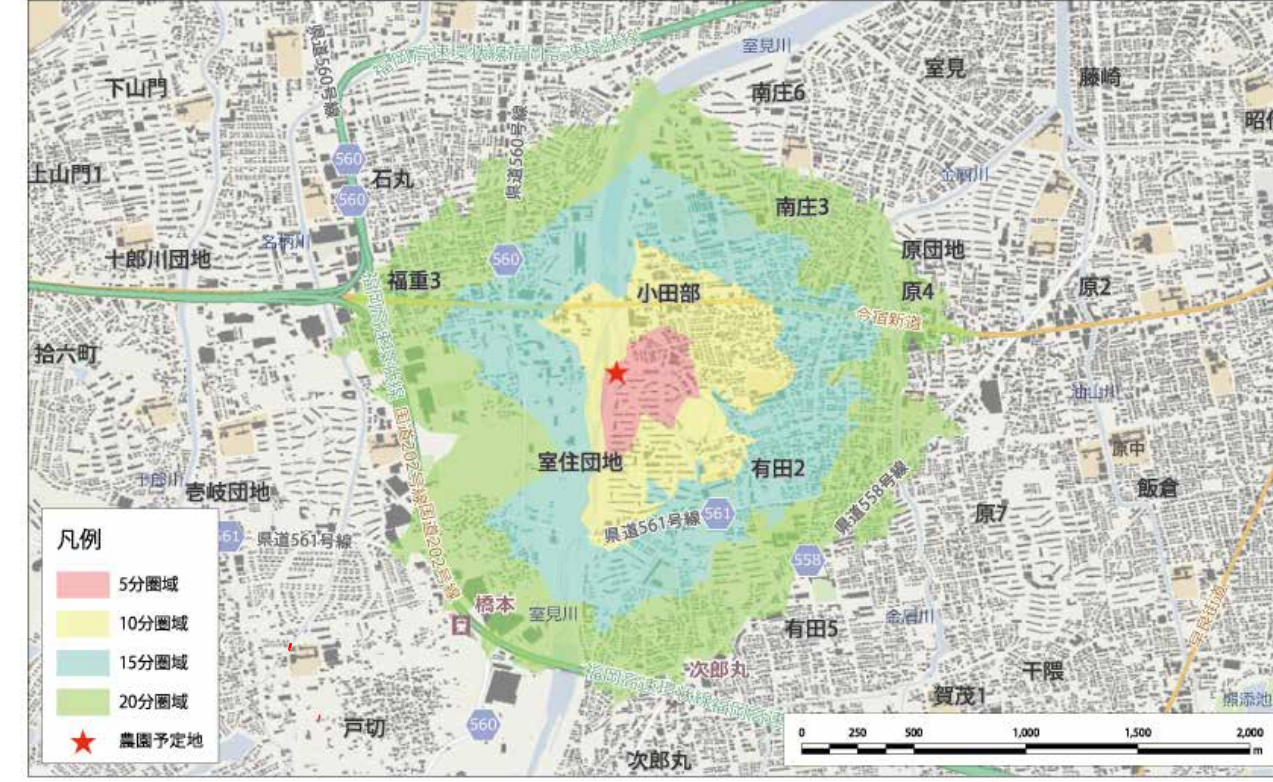
明らかになったこと

- ・徒歩到達圏の結果及びアンケートの結果より、校区全体から利用が見込める。
- ・ヒアリング及びアンケートの結果より、子供と高齢者のつながりができることにより地域コミュニティの活性化が図れると考えられる。
- ・アンケート結果より、農園での活動内容については健康づくりに関連させた活動を盛り込むことや、都合に合わせて参加できるような程度の自由さが必要である。
- ・ヒアリング及びアンケートの結果より、農園開設へのニーズはある。

結果

STEP 01 到達圏解析結果

農園予定地からの徒歩到達圏（5～20分）



共同農園開設予定地から徒歩 5 分以内で室住団地の北半分、徒歩 10 分以内で室住団地の全域、徒歩 15 分以内で有住校区全域に到達可能である。

近隣農園からの徒歩到達圏との重なり

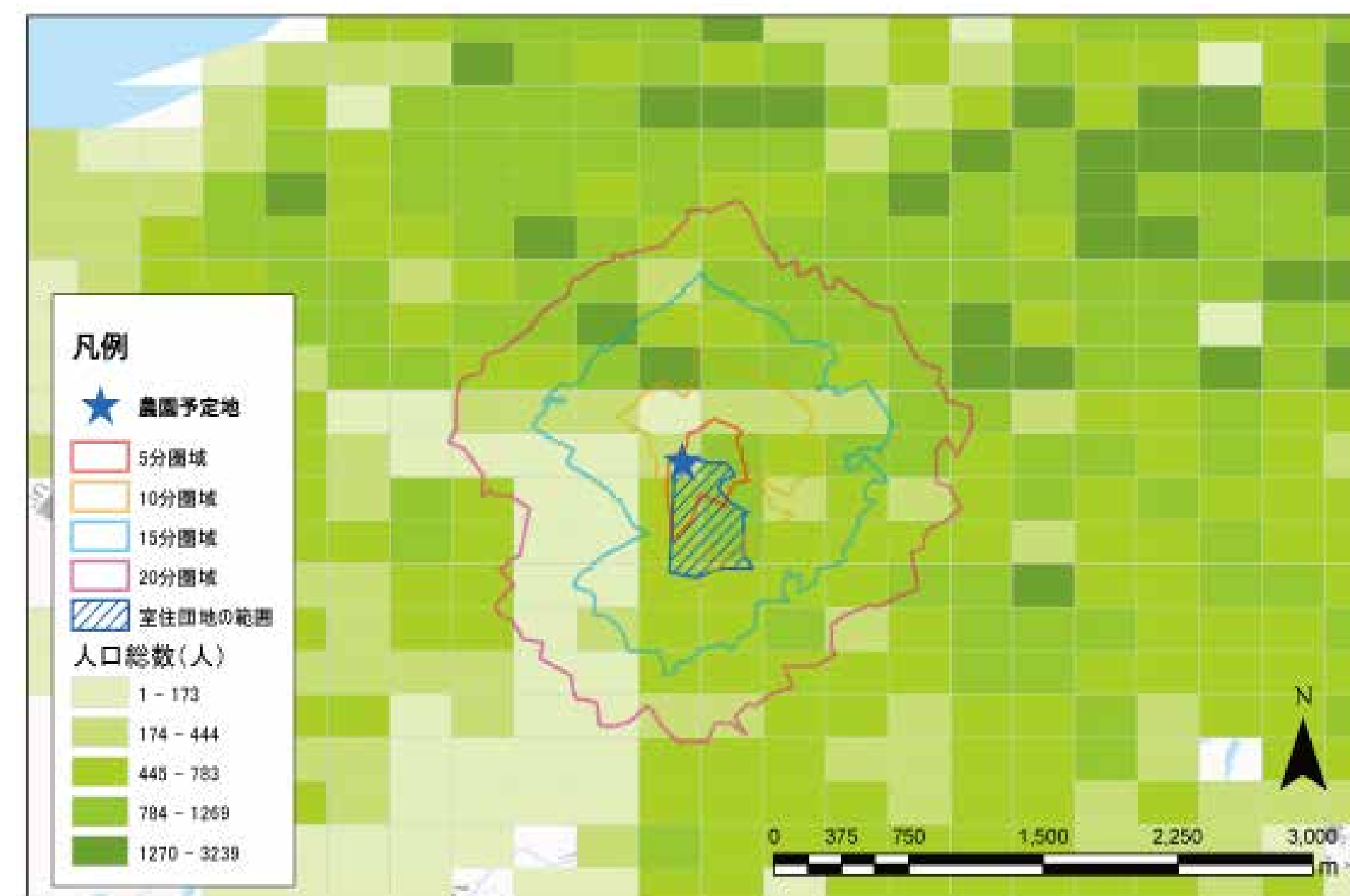


室見川の西側地域の住民は、到達時間のみで判断すると、農園予定地★よりも既存の貸し農園▲を利用する可能性が高いと考えられる。

農園予定地★の室見川対岸に貸し農園▲がある。それぞれの農園からの徒歩到達圏を重ねて分析した。

- ・室住団地の北部 1/3
★まで→5 分圏内 ▲まで→15 分圏内
- ・室住団地の中部 1/3
★まで→10 分圏内が大部分
▲まで→10 分圏内、15 分圏内、20 分圏内
- ・室住団地の南部 1/3
★まで→15 分圏内が大部分
▲まで→15 分圏内、20 分圏内
- ・室見川対岸地域
★まで→10 分で到達できる範囲が少ない

農園予定地周辺地域の人口総数メッシュ（250m）と徒歩到達圏の重なり



農園予定地★周辺地域の人口総数メッシュ（250m）と徒歩到達圏を重ねて分析した。室住団地は、445-783 人および 784-1269 人の範囲にある。周辺地域を見ると、東側は人口総数 445-783 人および 784-1269 人の範囲が多く見られる。

西側は全体的に 1-173 人の範囲が多い。南側は 1-173 人および 445-783 人の範囲が多く見られる。北側は 784-1269 人および 1270-3239 人の範囲が多く見られる。まとめると、室住団地周辺は北側と東側に人口が密集しており、南側ととりわけ西側（室見川対岸以西）の人口密度が低いことが分かった。このことと、近隣農園からの徒歩到達圏に関する上記の分析の結果から、室見川以西の住民の農園予定地の利用はあまり多くなく、室見川以東、とりわけ南部からよりも北部からの住民の農園利用が多いと考えられる。

STEP 02 ヒアリング結果

UR 都市機構

- ・若い世代の人に団地に住んでほしい
- ・同時に、現在居住している多くの高齢者の存在も大切にしたい
- ・団地でのこどもの活動に力を入れている
- ・農園で採れた野菜を子ども食堂で使用し、野菜を作る段階から食べる段階まで子ども達に経験させ、学んでもらいたい

老人ホーム「ラ・ポール有田」

- ・入居者に人気のある活動の要素は、「外出」と「交流」
- ・「運動/リハビリ」のサークル活動に農を組み込む可能性は考えられる
- ・施設から農園候補地まで徒歩での移動は難しい
- ・校区内に、デイサービス、サービス付高齢者住宅、特別養護老人ホームがあり、長く住み続けられる地域であると思われる

- ・子どもにも若い人にも高齢者にも魅力的な場所にする必要がある
- ・野菜の栽培から食までを一連して行えるプログラムを提供することが必要
- ・高齢者が利用しやすい環境（農園空間、農園までの道）を整える必要がある

有住校区自治会長・公民館長

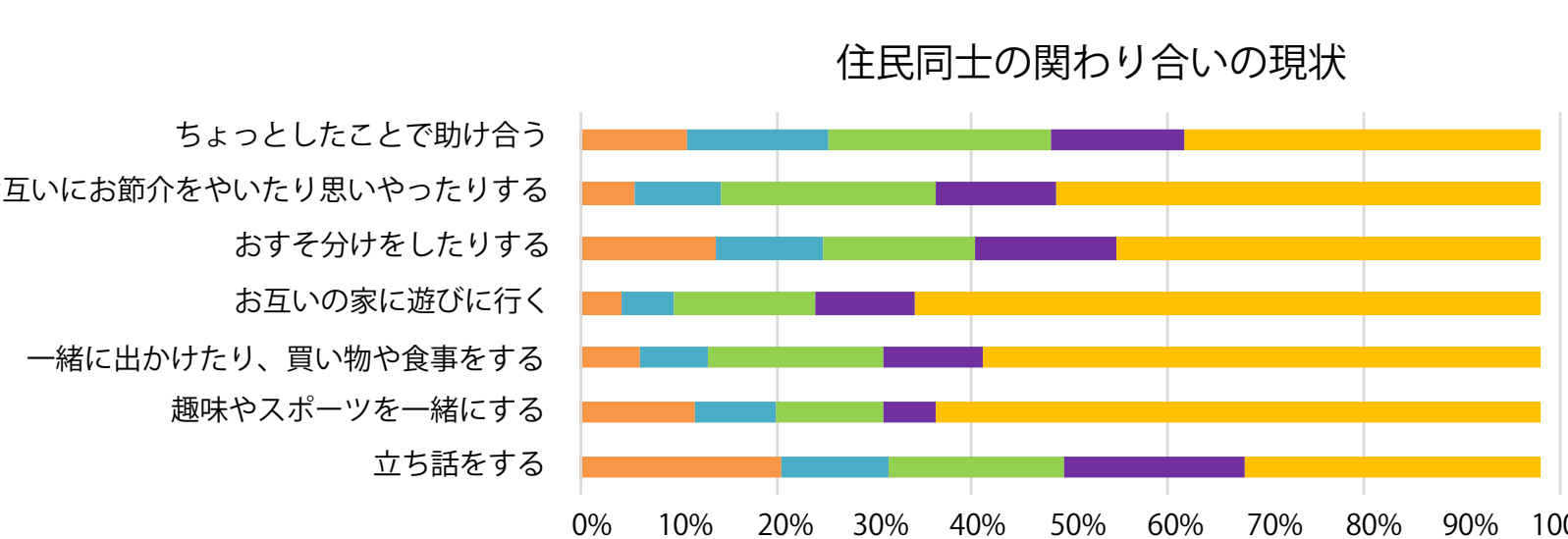
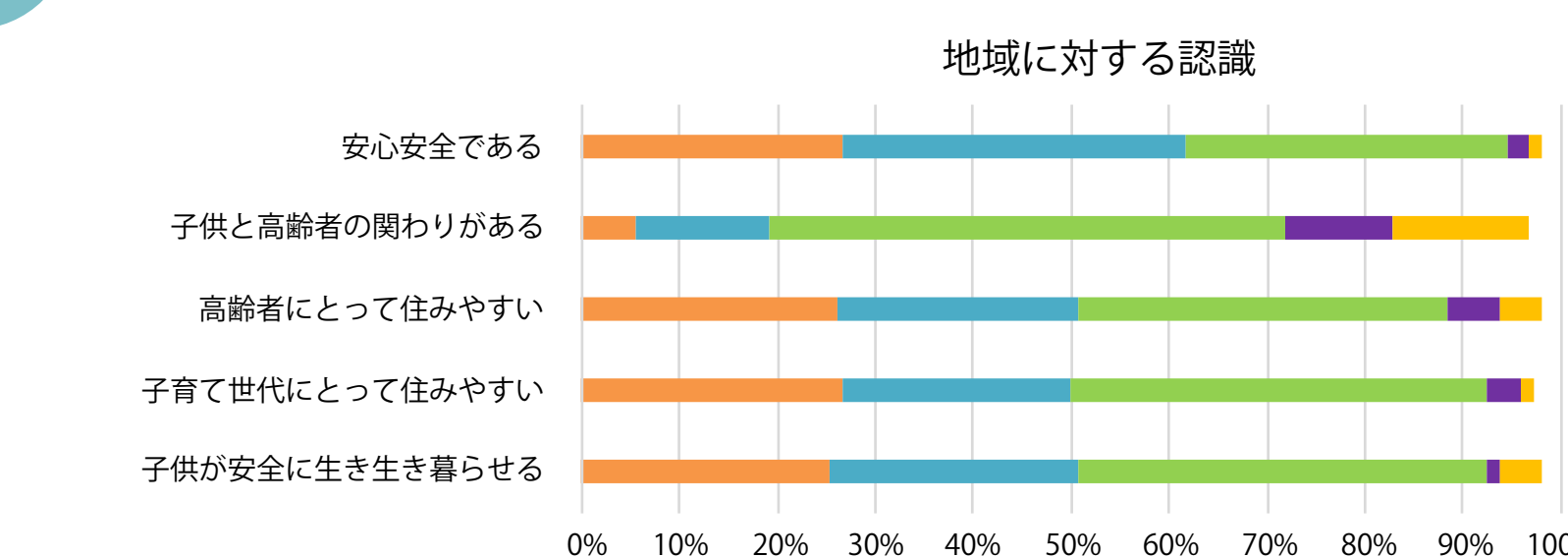
- ・治安維持のための活動は積極的に行っているが、農園が開設されることにより外部の人が地域の中に入ってくることに反対しない
- ・屋外での地域活動は団地中央付近にある広場で行うことが多い
→団地住民の行動の方向性は、団地中央部および団地のバス停方向がメイン
- ・活動内容に「食」の要素を入れると格段に参加率が上がる

有住小学校校長

- ・子どもの人間性や学力の向上のためには、普段の生活経験の豊富さが重要
→地域に農園ができれば、地域生活のバリエーションが増える
- ・校区内の治安は悪くなく、子どもを見守る雰囲気は比較的にできている
- ・野菜づくりの授業はあるが、知識のある先生がいないため、指導者が欲しい
- ・農体験を通して地域の人と関わることは歓迎する

- ・団地内住民だけでなく、周辺地域の住民も対象にして計画してよい
- ・農園開設により地域住民の新たな行動範囲と移動方向が生まれ、出会いの場が多様になり得る
- ・体験農園のように、指導者のいる農園利用の仕方を提供する必要がある

STEP 03 アンケート結果

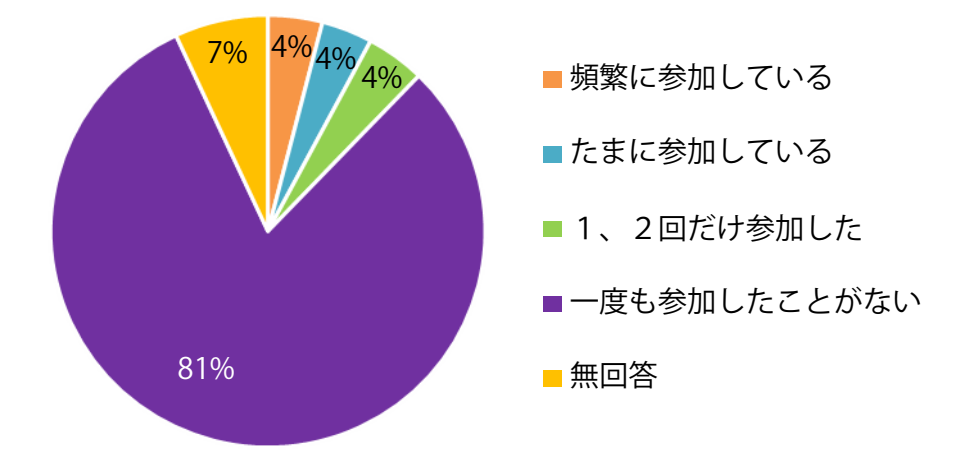


地域については、住民同士の関わり合いの現状は立ち話やちょっとした助け合い程度である。

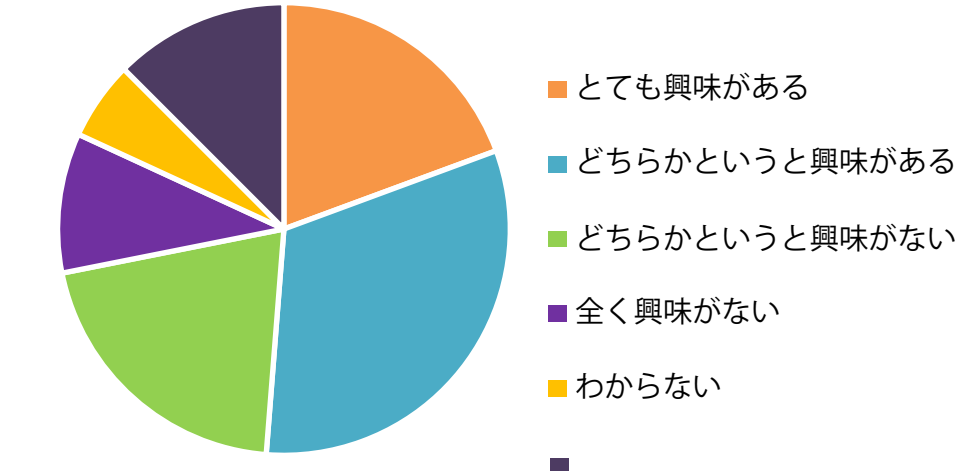
地域に対する認識は、安心安全で地域に対する認識はあるが子どもと高齢者の関わりはあまり無い地域であるという結果となった。

また、地域活動への参加率の低さが目立つ。農的活動への興味関心は、あると答えた人の方が多かった。共同農園を開設した場合に、利用したいと答えた人がそうでない人よりも多かった。

地域活動への参加状況（全体合計）



農的活動への興味関心



共同農園利用の意欲

